山口大学研究プロジェクト
コロナ危機と時間学　～新型コロナウイルス感染症と私たちの過去・現在・未来～

研究成果報告書

主研究者	青山　翔	所属	教育学部
共同研究者			

研究課題名

新型コロナウイルス感染症流行に伴う休校措置を過去に経験した幼児の体力の発達に関する縦断的研究

研究内容と成果の概要

本研究は，COVID-19 の流行に伴う休校措置を経験した幼児（COVID-19 流行経験群）と経験していない幼児（対照群）の体力の発達の違いについて縦断的に明らかにすることを目的とした．

COVID-19 流行経験群は 3 歳児 51 名を対象として，2019 年 11 月の 3 歳児の時，2020 年 11 月の 4 歳児の時，2021 年 11 月の 5 歳児の時に，対照群は 3 歳児 52 名を対象として，2017 年 11 月の 3 歳児の時，2018 年 11 月の 4 歳児の時，2019 年 11 月の 5 歳児の時にそれぞれ体力測定を行った．体力測定の項目について，男女別に，群（COVID-19 流行経験群・対照群）×時期（3 歳児・4 歳児・5 歳児）の分散分析を行った．

その結果，男児と女児の体支持持続時間の交互作用が有意であったことから単純主効果の検定を行った．男児の体支持持続時間については，4 歳児において，COVID-19 流行経験群（M = 27.9, SD = 11.8）が対照群（M = 65.0, SD = 39.1）よりも有意に成績が低く（$p < .05$），5 歳児において，COVID-19 流行経験群（M = 33.5, SD = 22.7）が対照群（M = 72.9, SD = 54.1）よりも有意に成績が低かった（$p < .05$）．また，対照群において，3 歳児（M = 23.9, SD = 14.1）よりも 4 歳児（M = 65.0, SD = 39.1）の成績が有意に高く（$p < .001$），3 歳児（M = 23.9, SD = 14.1）よりも 5 歳児（M = 72.9, SD = 54.1）の成績が有意に高かった（$p < .001$）．女児の体支持持続時間については，4 歳児において，COVID-19 流行経験群（M = 27.6, SD = 8.5）が対照群（M = 56.1, SD = 18.5）よりも有意に成績が低く（$p < .001$），5 歳児において，COVID-19 流行経験群（M = 43.9, SD = 24.8）が対照群（M = 79.5, SD = 36.1）よりも有意に成績が低かった（$p < .05$）．また，対照群において，3 歳児（M = 26.3, SD = 10.7）よりも 4 歳児（M = 56.1, SD = 18.5）の成績が有意に高く（$p < .001$），4 歳児（M = 56.1, SD = 18.5）よりも 5 歳児（M = 79.5, SD = 36.1）の成績が有意に高く（$p < .05$），3 歳児（M = 26.3, SD = 10.7）よりも 5 歳児（M = 79.5, SD = 36.1）の成績が有意に高かった（$p < .001$）．COVID-19 流行経験群において，3 歳児（M = 20.5, SD = 7.4）よりも 5 歳児（M = 43.9, SD = 24.8）の成績が有意に高かった（$p < .05$）．

本研究により，COVID-19 の流行に伴う休校措置を経験した幼児の筋持久力の発達が低下していたことが対照群との比較を通して縦断的に明らかになった．

研究進捗状況・研究成果の公表状況等 論文、学会等発表、実データの利用状況、研究の有用性を広めるための活動など
【学会発表】 ・青山翔.（2023）COVID-19 流行前後における日本の幼児の体力に関する縦断的研究，日本幼児体育学会第 19 回大会. 【論文発表】 ・Sho Aoyama. (2023) Effects of school closure due to COVID-19 on the physical fitness of Japanese kindergarteners: a longitudinal study. *Journal of Physical Activity Research*, 8(2), 73-77.
その他特記事項
本研究実施にあたり，ご支援をしていただきましてありがとうございました。